

悪性高血圧症に対する直接的レニン阻害薬の有効性に関する後ろ向き検討のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2022年10月18日～2027年12月31日

〔研究課題〕 悪性高血圧症に対する直接的レニン阻害薬の有効性に関する後ろ向き検討

〔研究目的〕 高血圧患者は日本全国で4300万人の患者が存在する国民病であり、心血管疾患や腎臓病の発症を介して国民の影響に重大な影響を及ぼしています。悪性高血圧（高血圧緊急症）は高血圧の最重症型で、心臓・脳・腎臓に重篤な影響がある緊急疾患で、適切な治療が行われないと命にことあります。悪性高血圧の治療としてはACE阻害薬というお薬が使われることが殆どですが、悪性高血圧症は稀な疾患であるために、最適な治療法については十分に検討されていません。そこで、悪性高血圧の発症に根本的な役割を果たすと考えられる、レニンというホルモンを直接的に抑制する薬剤の有効性について後ろ向きに検討し、今後の診療上有用なデータを抽出・解析することを目的として、本研究を行います。

〔研究意義〕 本研究の解析により診療の質の改善、ひいては医療経済上のベネフィットをもたらす可能性があります。

〔対象・研究方法〕 調査対象となるのは2013年1月から2022年9月までに当大学附属病院に受診された患者様で、調査項目は、年齢、性別、臨床症状、検査データ、治療方法、経過などです。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院

〔個人情報の取り扱い〕 研究で知り得た個人情報については、内科医局内で管理し、外部に漏洩しないように細心の注意を払って厳重に管理します。あなたの検体や臨床検査データを加工し、あなたの名前は付けずに番号だけを付けて扱います。研究終了後は、情報を帝京大学臨床研究センターに提出し、同センターで10年間保管の後に廃棄します。

〔その他〕 今回の研究で得られた全体的な結果については、医学的な専門学会や専門雑誌などで報告されることがあります。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：柴田 茂（医学部内科学講座・教授）

住所：東京都板橋区加賀2-11-1

TEL：03-3964-1211（代表）〔内線 40355 〕